

日韓のドラマリメイク作品に現れた価値観の違い —医療ドラマにおける謝罪行動に注目して—

北村 夏海

日本と韓国は隣国同士であり、日韓基本条約、日韓請求権・経済協力協定その他関連協定の基礎の上に、緊密な友好関係を築いてきた。近年、旧朝鮮半島出身労働者問題、慰安婦問題、竹島問題などに起因する政治的緊張が続く一方、経済、文化、芸術、スポーツ等、幅広い分野で交流が進展している。例えば日韓のドラマリメイク作品数は2000年代に比べ、2010年代に増加している。

日韓のドラマリメイク作品の比較研究においては、これまで依頼行動や家族間の親密性、社会性について研究がなされてきた。本研究は、日韓のドラマリメイク作品における「謝罪行動」に焦点を当て、両国における「価値観の相違」について考察し、相互理解の一助とすることを目的とした。

調査対象は『グッド・ドクター』（医療ドラマ）の韓国版（2013/KBS）と日本版（2018/フジテレビ）である。謝罪行動のシーンを分析し、両者における価値観の差異を考察した。分析にあたっては、李（2017）の方法を援用し、謝罪に用いられる戦略および謝罪がおこなわれる状況をカテゴリーに分類した上で両者の比較をおこなった。また、謝罪の際になされる非言語行動についても比較した。

その結果、日韓の『グッド・ドクター』における共通点は、「明確な謝罪表明」、「謝罪対象・内容の陳述」を中心に1つか2つの謝罪戦略が用いられるケースが多いという点であることが明らかになった。また、相違点は、謝罪の際になされるお辞儀の回数、角度、秒数による非言語コミュニケーションであり、日本版の方がお辞儀の出現頻度が高く、角度が深く、秒数も長い傾向が見られるという点であることも明らかになった。お辞儀文化は日韓共通であるが、お辞儀の出現頻度などから日本の方が謝罪の際のお辞儀を重視しているのではないかと考えられる。

『グッド・ドクター』の分析で得られた、日韓ともに「明確な謝罪表明」が用いられるケースが多いという結果は、日韓双方における言語の学習により意思疎通がしやすくなることを示唆していると考えられる。

本研究が対象としたのは、『グッド・ドクター』という一作品の日本版と韓国版ではあるが、本研究で得られた知見は、文化的近接性があったとしても、一つの行動に対して自文化での解釈を当てはめるには限界があり、同じ言動に異なる意味が込められていたり同じ意味が異なる言動で表現されたりする可能性があることを、コミュニケーションにおいて重大な役割を担う「謝罪行動」という具体的事例によって示したという点で、相互理解進展の一端に資するものと考えられる。

（指導教員 辻 泰明）